



■公民館活動 ■生涯学習 ■文化振興 ■学校 ■スポーツ

～地域で学び、活動する皆さんを応援します～
北秋田市教育委員会



学びの広場

学びの楽しさで「市民に笑顔」「地域を元気に」に

～北秋田市生涯学習奨励員協議会～

北秋田市生涯学習奨励員協議会が、6月2日に開催され、新たに高校生奨励員2人を含む13人の委員へ津谷市長から委嘱状が交付されました。

生涯学習奨励員は、秋田県独自の制度で、市民の学習活動を奨励し、住民と行政・各団体のパイプ役となって生涯学習の充実や地域活動の推進を図ることを目的に活動を行っています。

奨励員は、自分たちの活動が地域を元気にし、世代を超えた交流の機会となるよう、若者の柔軟な発想やアイデアを取り入れた活動を行っていくため、



▲学びの楽しさを地域の活性化につなげる話し合い協力していこうと気持ちを新たにしました。

合川中学生と「合川「協働」花壇づくり」

～合川ことぶき大学花いっぱい運動～

合川ことぶき大学と合川中学校による花苗植栽活動が、6月2日に合川小児童クラブ前の市民健康広場花壇で行われ、大学生40人と合中生60人が参加しました。

合川ことぶき大学生は、今期のテーマ「知恵の輪広げてまちづくり」のもと、これまでの経験から得た知恵を合中生に伝えながら、秋田北鷹高校生が育てた色とりどりのマリーゴールド800株とペゴニア100株を手際よく植えました。

合川ことぶき大学と合川中学校は、今後も協働で



▲合川中学校の生徒と協働で植栽活動を行う花壇整備を行うほか、合川中学校の卒業式に大学生が出席するなど交流を深めていく予定です。

第15回 北秋田市民俗芸能大会

【日時】8月22日(日)
開場 12時30分 / 開演 13時30分
【会場】北秋田市文化会館(入場無料)
【出演団体】
○竜森郷土芸能保存会 ○比立内比靖会
○綴子下町太鼓保存会 ○福田獅子舞保存会
○阿仁前田獅子踊保存会

※新型コロナウイルス感染症拡大防止のため次の対策を実施します。ご理解とご協力のほどよろしくお願いいたします。
・入場定員を250人とし、県内在住者を対象とします
・来場時のマスクの着用、手指の消毒、検温の実施



・入場時、連絡先の記入
・感染状況によっては開催を中止する場合があります

☎ 生涯学習課文化係 ☎62-6618

伊勢堂岱遺跡メモリーズ

発掘 学芸員コラム
世界遺産物語! vol.6

世界文化遺産登録に！

皆さんがこの8月号を手にとって読まれているところには、伊勢堂岱遺跡はユネスコ世界文化遺産に登録されていると思います。

前回で述べたように、5月26日のユネスコの諮問機関であるイコモスからの勧告は「北海道・北東北の縄文遺跡群」は世界文化遺産登録にふさわしいというものでした。

イコモス勧告以後、伊勢堂岱遺跡には多くの見学者が訪れています。縄文館入館者は、勧告以前だと土日祝日30〜40人でしたが、勧告後は100〜120人を数え、3倍以上増えていきます。令和3年5月の月間入館者数は1511人で、開館直後の



▲ジュニアボランティアガイドの活動

平成28年5月を除く、最高の見学者数でした。続く6月も1691人と右肩上がりとなっています。5、6月の見学者の傾向として、その約90%が県内から訪れています。県内見学者が多いことは、コロナ禍の影響であることは言うまでもありません。また、県内団体の見学予約も多く、中学校などの修学旅行をはじめ、100件以上の予約があり、対応に追われています。

一方で、県外見学者に無作為で話を聞いてみると「大館能代空港に降りて、伊勢堂岱遺跡を見てから、他の縄文遺跡を巡るつもり」「東京か



▲伊勢堂岱遺跡ワーキンググループの活動

ら内陸線から来た。これから北東北の観光地をまわる」という方が多いことに気がつきます。ご存じのように、伊勢堂岱遺跡は、大館能代空港、秋田内陸線縄文小ヶ田駅、伊勢堂岱インターチェンジといった交通機関に隣接しており、アクセスは非常に良く、東京から来た旅行者が最初に訪れる観光地の一つです。このことから北秋田市では、伊勢堂岱遺跡が「北海道・北東北の縄文遺跡群」の17カ所の遺跡のうち、その起点となりえると考えています。

ところで「縄文遺跡群」の17カ所の遺跡はすべて伊勢堂岱縄文館のよ

うなガイダンス施設があります。どこの施設でも出土品の展示や様々な体験活動(土器などのものづくり)が行われており、極端な言い方をすると、どこの施設に行っても「縄文文化」を体験できるような良い時代になりました。

数多くあるガイダンス施設の中で、伊勢堂岱縄文館だけしかない個性を強調しなければ見学者は来ていただけません。縄文館の個性の一つに「教育活動」があると私は思います。具体的には、子どもたちの「ジュニアボランティアガイド」や大人の「伊勢堂岱遺跡ワーキンググループ」といったボランティア活動です。これらの団体は、残念ながらコロナ禍でガイド活動を縮小していますが、研修を続けており、アフターコロナ時代に向けて着々と準備しています。

伊勢堂岱遺跡は世界文化遺産として、今後も長く文化的価値を発信していかなければなりません。活動を続ける原動力は、地域住民が楽しむことだと私は思います。

北秋田市学芸員